

8月23日のレッスン

パウロがテモテを励ます

鍵となる聖句：「それゆえ、私はあなたに、私の
按手によってあなたの中に与えられた神の賜物を
、再び燃え立たせるよう、思い出させておきます
。」

テモテへの手紙第二 1:6

関連聖句：

テモテへの手紙第二 1:1-14; 3:14,15

使徒パウロには実の子供はいなかったようですが、テモテを「信仰におけるわが子」と呼んで優しく語りかけたことから、その深い愛情がうかがえます。（テモテへの手紙第一 1:2）彼はすべての信者を自分の霊的な子供として見ていましたが、その思いは、長い間忠実に彼の傍らで仕えてきたテモテに対して特に強いものでした。

今日の聖句にあるパウロの言葉は、すべてのクリスチャン、とりわけ真理においてまだ若い人々への確かな助言です。それらは、自分の人生を主とその奉仕に奉献し、自分の才能や機会に応じて主の奉仕者や僕として役に立ちたいと願っている人々にとって、さらに大きな影響力を持ちます。

これらの言葉は、パウロがローマで囚人となり、死を目前に控えていた頃に、テモテに向けて送られたものです。テモテはもはや子供ではなく、お

そらく四十歳前後で、長年にわたり使徒と共に労苦を重ねてきました。この手紙が書かれた当時、テモテはエフェソの教会に仕えており、そこで彼の名を冠した書簡を受け取っていました。

パウロは、ティモテオに自分の使徒としての立場を思い出させることから自己紹介を始めます。彼はダマスコへの道中で、主の栄光に満ちた御姿を垣間見ることが許され、主の復活の証人となりました。その後、パウロは、キリスト・イエスにあって与えられる神のいのちの約束の内容を宣べ伝える使命を授けられました。（使徒言行録 9:3-20、22:14,15）

パウロは、神の前での清い良心、テモテへの絶え間ない祈り、そしてエフェソでの別れの後、再び彼に会いたいという願いについて触れています。

（テモテへの手紙第二 1:3,4）目立つ立場に伴う危険を承知していたパウロは、テモテに対し、謙遜であり続け、忠実であり、聖書に根ざした生活を送るよう励ましました。（テモテへの手紙第二 1:13）彼は、神が御言葉を通して与えてくださる力にしっかりと立ち続ける必要がありました。

またパウロは、ティモテオが母と祖母から受け継いだ誠実な信仰と敬虔さを思い起こさせ、この受け継いだものが彼の心に堅固な土台を築いたことを確信させました。（テモテへの手紙第二 1:5）他の聖書の箇所も、敬虔な親が子供たちに人格の土台を築き、その上に有益な人生が築かれることを強調しています。申命記 6:6,7；箴言 22:6；エペソ人への手紙 6:4

使徒はテモテに対し、自分の中にある「神の賜物を燃え立たせる」こと——すなわち、新たな活力をもってそれを再燃させることを勧めました。また、恐れに屈してはならないとテモテに警告し、神の御霊は恐れではなく、「力と愛と健全な心」であると彼に思い出させました。（テモテへの手紙第二 1:6,7）そのような霊は、勇氣、神とその民への愛に満ちた献身、そして熱意を注ぐ上での賢明な判断力を生み出します。パウロの願いは、神のすべての子供たちがこの霊をますます深め、主の奉仕において、恐れを知らず、かつ賢明に自分の才能を用いるようになることでした。

テモテへの手紙第二3章14、15節で、使徒はテモテに対し、彼が神から教えを受けてきたこと、そしてその教えが旧約聖書の「聖書」と、イエスおよび靈感を受けた使徒たちの言葉を通じて彼に伝えられたことを思い出させました。テモテがパウロによって励まされたように、私たちもまた、この愛すべき使徒の言葉によって力づけられましょ

う。